

## 大阪市高齢者実態調査の概要（在宅医療・介護連携関係）

### 【本人調査・ひとり暮らし調査】

#### ○本人調査

問 9 かかりつけの医師の有無	4
問 9-1 通院出来なくなった場合の医師による訪問診療	4
問 10 かかりつけの歯科医師の有無	4
問 10-1 通院出来なくなった場合の歯科医師による訪問歯科診療	5
問 13 医療の相談先	5
問 14 在宅で提供される医療	5
問 15 終末期に過ごしたい場所	6
問 16 終末期についての話し合いの有無	7
問 17 日常生活全般に対する不安	7
問 28 介護や支援が必要になった場合に希望する暮らし方	8
問 29 在宅生活継続のために必要な支援	8
問 45 重点を置くべきと考える高齢者施策	8

#### ○ひとり暮らし調査

問 9 かかりつけの医師の有無	9
問 9-1 通院出来なくなった場合の医師による訪問診療	9
問 10 かかりつけの歯科医師の有無	9
問 10-1 通院出来なくなった場合の歯科医師による訪問歯科診療	9

問13 医療の相談先	9
問15 終末期に過ごしたい場所	10
問17 日常生活全般に対する不安	10
問28 介護や支援が必要になった場合に希望する暮らし方	11
問29 在宅生活継続のために必要な支援	11
問45 重点を置くべきと考える高齢者施策	11

**【介護保険サービス利用者・未利用者調査及び介護者調査】**

**○介護サービス利用者調査**

問 8 現在の自宅で受けている医療に関するサービス	12
問 8 訪問される方	12

**○サービス未利用者調査**

問 8 現在の自宅で受けている医療に関するサービス	13
問 8 訪問される方	13

**○介護者調査**

問 24-1(23-1) 介護を行ううえで困った時の相談先	14
問 27(25) 在宅での介護を続けるために重要なこと	14

**【介護支援専門員調査】**

問 8-3 利用者にかかる医療的処置	15
問 8-4 終末期を在宅で迎える利用者数	15
問 11 量的に不足していると思われるサービス	15

問 14 医療に関する情報収集方法	・・・・・・・・・・	15
問 15 医療機関との連携するうえでの工夫	・・・・・・・・・・	16
問 16 病院・施設等を入退所する利用者を担当したことがあるか	・・・・	17
問 16 -1 入退所する病院・施設等との連携について	・・・・・・・・・・	18
問 16 -2 病院・施設等との連携の加算について	・・・・・・・・・・	19
問 16 -3 退院・退所の際に困ったことの有無	・・・・・・・・・・	20
問 17 在宅で医療的処置が必要な利用者への支援を行ううえで困っていること	・・・・・・・・・・	20
問 18 在宅医療を進めていく上で必要な社会資源	・・・・・・・・・・	21
問 19 サービス担当者会議の開催にあたり困難と感じていること	・・・・	22
問 33 介護支援専門員業務を行ううえでの課題	・・・・・・・・・・	22
<b>【施設調査】</b>		
問 17 (1) 看取りの届出状況	・・・・・・・・・・	23
問 17 (2) 看取りの実績	・・・・・・・・・・	23
問 17 (3) 看取りの実績	・・・・・・・・・・	23

## 【本人調査・ひとり暮らし調査】

### ○本人調査

#### 問 9 かかりつけの医師の有無 (P31)

あなたには、かかりつけの医師はおられますか。(○はひとつ)

- ・かかりつけの医師の有無については、「かかりつけの医師がいる」が 80.7%に対し、「かかりつけの医師はいない」は 16.2%となっている。無回答 3.2%  
性別で見ると、「かかりつけの医師がいる」の回答割合は女性の方が高くなっている。  
年齢別で見ると、「かかりつけの医師がいる」の回答割合は年齢が上がるほど高くなり、85～89歳が 92.0%で最も高くなっている。
- ・居住区別で見ると、「かかりつけの医師がいる」の回答割合は、東住吉区が 85.9%で最も高く、西区が 73.4%で最も低くなっている

#### 問 9-1 通院出来なくなった場合の医師による訪問診療 (P33)

【問 9 で「かかりつけ医がいる」と回答された方に対象】

かかりつけの医師はあなたが通院出来なくなった時に自宅に来てくれますか。(○はひとつ)

- ・かかりつけの医師がいると回答した方に、通院出来なくなった場合の医師による訪問診療についてたずねると、「わからない」が 39.5%で最も多く、「来てくれない」が 31.9%、「自宅に来てくれる（来てくれると思う）」が 27.1%となっている。

#### 問 10 かかりつけの歯科医師の有無 (P34)

あなたには、かかりつけの歯科医師はおられますか。(○はひとつ)

- ・かかりつけの歯科医師の有無については、「かかりつけの歯科医師がいる」が 72.4%に対し、「かかりつけの歯科医師はいない」が 23.2%となっている。  
性別で見ると、「かかりつけの歯科医師がいる」の回答割合は女性の方が高くなっている。  
年齢別で見ると、「かかりつけの歯科医師がいる」の回答割合は 75～79歳が 78.2%で最も高くなっている。
- ・居住区別で見ると、「かかりつけの歯科医師がいる」の回答割合は、北区が 78.6%で最も高く、西成区が 60.7%で最も低くなっている。

**問 10-1 通院出来なくなった場合の歯科医師による訪問歯科診療 (P36)**

【問 10 で「かかりつけ歯科医師がいる」と回答された方対象】

かかりつけの歯科医師はあなたが通院出来なくなった時に自宅に来てくれますか。

(○はひとつ)

- ・かかりつけの歯科医師がいると回答された方に、通院出来なくなった場合の歯科医師による訪問歯科診療についてたずねると、「わからない」が**50.8%**で最も多く、次いで「来てくれない」(38.7%)、「自宅に来てくれる(来てくれると思う)」(9.2%)となっている。

**問 13 医療の相談先 (P39)**

在宅で生活をしていて医療が必要になった時、どこに相談されますか？ (○はいくつでも)

かかりつけの医師 **63.8%** 家族や親族 45.9% 区役所 18.1%

かかりつけの歯科医師 **16.1%** 友人・知人 13.1% 介護支援専門員 11.5%

地域包括支援センター・ブランチ 7.4% **かかりつけの薬剤師 3.8%**

訪問看護ステーション 3.7% ホームヘルパー 3.0% 区医師会 1.3%

その他 2.4% 無回答 6.5%

- ・医療の相談先については、「かかりつけの医師」が**63.8%**で最も多く、次いで「家族や親族」(45.9%)、「区役所」(18.1%)が続いている

**問 14 在宅で提供される医療 (P40)**

次の項目それぞれについて「利用している」「利用していないが知っている」「知らない」のいずれか該当するものを番号で選んでください。(○はひとつずつ)

	利用している	利用していないが知っている	知らない	無回答
医師による訪問診療	2. 2	4 7. 4	3 4. 8	1 5. 6
歯科医師による訪問歯科診療	1. 1	3 0. 1	4 9. 2	1 9. 5
薬剤師による訪問薬剤管理指導	0, 9	1 5. 4	6 2. 1	2 1. 6
看護師などによる訪問看護	1. 7	3 2. 4	4 4. 7	2 1. 2
緊急時に対応してくれる医師または医療機関	5. 9	3 1. 0	4 4. 8	1 8. 3
緊急時に対応してくれる看護師	1. 4	1 6. 9	6 1. 2	2 0. 6

または訪問看護				
---------	--	--	--	--

- ・在宅で提供される医療について、「利用している」の回答割合が最も高いのは“緊急時に対応してくれる医師または医療機関”（5.9%）で、「利用している」と「利用していないが知っている」をあわせた認知度は、“医師による訪問診療”が49.6%で最も高くなっている。年齢別でみると、いずれの項目も高齢になるほど「利用している」の回答割合が高くなっている

医師による訪問診療	利用している	利用していないが知っている	知らない	無回答
65～69歳	0.7	52.1	38.2	9.0
70～74歳	1.0	49.0	36.5	13.5
75～79歳	2.0	45.4	35.2	17.4
80～84歳	3.3	43.0	30.8	22.9
85～89歳	6.3	45.3	26.2	22.2
90歳以上	12.8	39.4	29.4	18.4

緊急時に対応してくれる医師または医療機関	利用している	利用していないが知っている	知らない	無回答
65～69歳	3.3	33.6	53.1	10.0
70～74歳	4.2	32.2	48.5	15.0
75～79歳	7.1	30.1	43.4	19.4
80～84歳	7.9	27.5	35.1	29.5
85～89歳	11.2	28.0	31.7	29.2
90歳以上	15.9	29.1	32.8	22.2

(他の項目は記載略)

### 問15 終末期に過ごしたい場所 (P42)

万一、あなたが治る見込みのない病気になった場合、終末期（人生の最期）をどこで過ごしたいですか。なお、必要な医療については、それぞれの場所で受けることができるものとしてお答えください。（○はひとつ）

自宅 41.5%    子どもの家や親戚の家 1.3%    高齢者向け住宅 1.4%

特養・介護付有料法人など 5.7%    病院内に併設される「住まい」の機能を重視した施設 7.7%    病院などの医療機関 21.4%    その他・わからない・無回答 2 1.0%

- ・終末期に過ごしたい場所については、「自宅」が41.5%で最も多く、次いで「病院などの

医療機関」(21.4%)、「病院内に併設される「住まい」の機能を重視した施設」(7.7%)が続いている。

- ・性別でみると、「自宅」の回答割合は男性の方が高くなっている。  
年齢別でみると、「自宅」の回答割合は高齢になるほど高く、「病院内に併設される「住まい」の機能を重視した施設」は高齢になるほど低くなっている。(図略)
- ・世帯状況別でみると、「自宅」はひとり暮らしが31.4%で最も低く、「病院などの医療機関」はひとり暮らしが23.1%で最も高くなっている。
- ・介護度別でみると、「自宅」は要介護1と要介護4・5で5割を超えており、「病院などの医療機関」では要介護3までの方で2割台となっている。

#### 問16 終末期についての話し合いの有無

問15の終末期の過ごし方について、誰かと話し合ったことがありますか。(〇はいくつでも)

- ・終末期についての話し合いの有無については、「話し合ったことがない」が46.2%で最も多いが、話し合ったことがある人では「家族・親族」が40.9%で最も多く、次いで「友人・知人」が13.1%となっている。
- ・年齢別でみると、「話し合ったことがない」の回答割合は高齢になるほど低く、「家族・親族」は高齢になるほど高くなっている。
- ・世帯状況別でみると、「話し合ったことがない」の回答割合は“夫婦のみで、配偶者も65歳以上”で最も低く、「友人・知人」では“ひとり暮らし”で最も高くなっている。

#### 問17 日常生活全般に対する不安 (P52)

あなたは、日常生活全般で不安を感じていますか。(〇はひとつ)

- ・とても不安を感じる9.4%、多少不安を感じる48.2% (計で57.6%)  
不安は感じない31.6%、わからない5.5%、無回答5.3%
- ・不安を感じると回答した人に、不安を感じる内容についてたずねる (複数回答)と、「急に具合が悪くなったりしたときのこと」が66.0%で最も多く、次いで「あなたや家族の健康のこと」(59.4%)、「自分自身が認知症になること」(58.0%)が続いている。

#### 問28 介護や支援が必要になった場合に希望する暮らし方 (p81)

あなたは、介護や支援が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいと思いますか。

(○はひとつ)

- ・介護や支援が必要になった場合に希望する暮らし方については、「介護保険の居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けたい」が**36.7%**で最も多く、次いで「家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けたい」**19.0%**とあわせた『現在の住宅に住み続けたい』割合は半数を超えている。

#### 問29 在宅生活継続のために必要な支援 (p85)

あなたは、どのような支援が身近にあれば、自宅での生活を続けていけるとおもいますか。

(○はいくつでも)

- ・在宅での医療や介護サービスなどの24時間支援体制ができていること  
今回：**37.9%**（前回：34.3%）
- ・自宅に来てくれる医師や歯科医師、薬剤師、看護師などの専門職がいること  
今回：**35.7%**（前回：30.3%）
- ・在宅生活継続のために必要な支援については、「毎日の食事の準備・後片づけや掃除・洗濯など家事を手伝ってもらえること」が**52.5%**で最も多く、次いで「在宅での医療や介護サービスなどの24時間支援体制ができていること」(37.9%)、「病院まで送り迎えしてもらえること」(37.7%)、「自宅に来てくれる医師や歯科医師、薬剤師、看護師などの専門職がいること」(35.7%)となっており、**医療に関連する支援が上位**となっている。

#### 問45 重点を置くべきと考える高齢者施策

あなたは、高齢者のための施策としてどのような点に重点を置くべきだと考えますか。

主なものに3つまで○をつけてください。(○は3つまで)

- ・高齢者のための施策として重点をおくべきものとしては、「健康づくり・介護予防の充実」が**38.4%**で最も多く、次いで「介護保険サービス(居宅サービス)の充実」(**28.1%**)、「在宅医療など地域での適正な医療提供体制の充実」(**22.5%**)となっている。



## ○ひとり暮らし調査

**問9 かかりつけの医師の有無 (P180)**

ひとり暮らし世帯の回答者の「かかりつけの医師の有無」については、「かかりつけの医師がいる」が78.9%であり、高齢者世帯全体よりやや低くなっている。

	かかりつけ医がいる	いない	無回答
高齢者世帯	80.7%	16.2%	3.2%
一人暮らし世帯	78.9%	16.8%	4.3%

**問9-1 通院出来なくなった場合の医師による訪問診療 (P180)**

かかりつけ医がいる回答者の「通院出来なくなった場合の医師による訪問診療」については、ひとり暮らし世帯の回答者は「わからない」が38.2%で最も多く、高齢者世帯全体比べても同様の傾向となっている。

	来てくれる（と思う）	来てくれない	わからない	無回答
高齢者世帯	27.1%	31.9%	39.5%	1.5%
一人暮らし世帯	26.5%	33.6%	38.2%	1.7%

**問10 かかりつけの歯科医師の有無 (P181)**

	かかりつけ歯科医がいる	いない	無回答
高齢者世帯	72.4%	23.2%	4.4%
一人暮らし世帯	67.4%	26.4%	6.2%

**問10-1 通院出来なくなった場合の歯科医師による訪問歯科診療 (P181)**

かかりつけの歯科医師がいる回答者の「通院出来なくなった場合の歯科医師による訪問歯科診療」については、ひとり暮らし世帯の回答者は「わからない」が51.6%で最も多く、高齢者世帯全体比べても同様の傾向となっている。

	来てくれる（と思う）	来てくれない	わからない	無回答
高齢者世帯	9.2%	38.7%	50.8%	1.3%
一人暮らし世帯	8.8%	38.1%	51.8%	1.5%

**問13 医療の相談先 (P183)**

ひとり暮らし世帯の回答者の「医療の相談先」については、「かかりつけの医師」が57.5%で最も多く、次いで「家族や親族」が36.5%となっているが、「区役所」、「友人・知人」、「介護支援専門員（ケアマネジャー）」、「訪問看護ステーション」、「ホームヘルパー」の回答割

合は高齢者世帯全体よりやや高くなっている。

上段：本人調査 下段：一人暮らし調査	利用している	利用していない が知っている	知らない	無回答
医師による訪問診療	2. 2	47. 4	34. 8	15. 6
	<b>2. 7</b>	<b>43. 3</b>	<b>34. 7</b>	<b>19. 3</b>
歯科医師による訪問歯科診療	1. 1	30. 1	49. 2	19. 5
	<b>1. 6</b>	<b>26. 7</b>	<b>47. 6</b>	<b>24. 1</b>
薬剤師による訪問薬剤管理指導	0. 9	15. 4	62. 1	21. 6
	<b>1. 3</b>	<b>15. 0</b>	<b>57. 2</b>	<b>26. 5</b>
看護師などによる訪問看護	1. 7	32. 4	44. 7	21. 2
	<b>2. 3</b>	<b>30. 0</b>	<b>42. 1</b>	<b>25. 6</b>
緊急時に対応してくれる医師または医療機関	5. 9	31. 0	44. 8	18. 3
	<b>5. 7</b>	<b>26. 9</b>	<b>44. 5</b>	<b>23. 0</b>
緊急時に対応してくれる看護師または訪問看護	1. 4	16. 9	61. 2	20. 6
	<b>1. 7</b>	<b>16. 4</b>	<b>56. 8</b>	<b>25. 0</b>

#### 問15 終末期に過ごしたい場所 (P185)

- ・ひとり暮らし世帯の回答者の「終末期に過ごしたい場所」については、「自宅」が31.4%で最も多く、次いで「病院などの医療機関」となっているが、「自宅」の割合は高齢者世帯全体より1割低くなっている。

#### 問17 日常生活全般に対する不安 (P186)

- ・ひとり暮らし世帯の回答者の「日常生活上不安を感じるか」については、高齢者世帯全体と比べると「とても不安を感じる」「多少不安を感じる」とも割合が多く、「不安は感じない」の割合が少なくなっており、ひとり暮らし世帯の方が、不安に感じるとの回答割合が高くなっている

- ・とても不安を感じる**11.5 (9.4%)**、多少不安を感じる**52.0 (48.2%)**  
不安は感じない**24.8 (31.6%)**、

#### 問28 介護や支援が必要になった場合に希望する暮らし方 (P197)

- ・ひとり暮らし世帯の回答者の「介護や支援が必要になった場合に希望する暮らし方」については、「家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けたい」は、高齢者世帯全体と比べて回答割合が1割程度低くなっている。

全体的には、高齢者世帯全体、ひとり暮らし世帯とも、在宅希望の回答割合が最も多い。

**問29 在宅生活継続のために必要な支援 (P198)**

- ・ひとり暮らし世帯の回答者の「在宅生活継続のために必要な支援」については、概ね高齢者世帯全体と同様の傾向となっているが、「地域での見守り、隣近所の人同士で声かけができていること」については、ひとり暮らし世帯の回答割合がやや高くなっている

**問45 重点を置くべきと考える高齢者施策 (P216)**

- ・ひとり暮らし世帯の回答者の「重点を置くべきと考える高齢者施策」については、高齢者世帯全体と概ね同様の傾向であるが、「高齢者向け住宅や住宅改修助成の充実」、「高齢者施策に関する情報の提供と相談」、「民生委員・町会などの地域の見守り、相談機能の充実」、「特になし」において、高齢者世帯全体よりもやや高い回答割合となっている

## 【介護保険サービス利用者・未利用者調査及び介護者調査】

## ○介護サービス利用者調査

## 問8 現在の自宅で受けている医療に関するサービス (p 19)

あなたは現在、医師などの訪問により、自宅での診察などを受けていますか。(○はひとつ)

- ・現在、医師などの訪問による自宅での診察などを「受けている」人は21.0%、「受けていない」人は56.6%となっている。(無回答22.3%)  
 前回調査と比較すると、「受けていない」が11.4ポイント減少している。(68.0⇒56.6)
- ・要介護度別で見ると、要介護度が高くなるほど、「受けている」割合が高くなっており、要介護度5では41.3%となっている。

	受けている	受けていない	無回答
要支援1	7.0%	78.1%	14.9%
要支援2	11.9	70.1	18.0
要介護1	16.4	65.7	17.9
要介護2	22.4	57.6	20.0
要介護3	29.6	42.4	28.0
要介護4	29.6	42.3	28.2
要介護5	<b>41.3</b>	28.3	30.4
わからない	16.7	45.8	37.5

## 問8 訪問される方 (p 20)

【問8で「1 はい」(に○をつけた方のみお答えください。】

訪問されている方をお答えください。(○はいくつでも)

医師 62.8% 看護師 44.0% OT・PT28.2% 歯科医師 20.2% 歯科衛生士 10.5%  
 薬剤師 8.8% 栄養士 1.2% その他 7.0% 無回答 1.6%

- ・訪問されている方については、「医師」が62.8%で最も多く、次いで「看護師」が44.0%、「理学療法士、作業療法士など」が28.2%となっている。
- ・要介護度別で見ると、要支援1と要介護1～5は「医師」が最も多く、要支援2では「理学療法士、作業療法士など」が最も多くなっている。また、「歯科医師」や「歯科衛生士」、「薬剤師」では、要介護度が高くなるほど割合が上昇傾向にある。

○サービス未利用者調査

問8 現在の自宅で受けている医療に関するサービス (p64)

あなたは現在、医師などの訪問により、自宅での診察などを受けていますか。(○はひとつ)

- ・現在、医師などの訪問による自宅での診察などを「受けている」人は 6.7%、「受けていない」人は 80.0%となっている。  
 前回調査と比較すると、「受けていない」が 9.4 ポイント減少している。(89.4⇒80.0)
- ・要介護度別でみると、**要介護3・4は「受けている」割合がともに 13.3%**となっておりその他の要介護度では1割未満となっている。

	受けている	受けていない	無回答
要支援1	3.3%	86.9%	9.8%
要支援2	4.8	85.6	9.6
要介護1	6.3	78.0	15.7
要介護2	8.8	80.3	11.0
要介護3	13.3	76.9	9.8
要介護4	13.3	72.6	14.2
要介護5	7.9	71.1	21.1
わからない	2.8	78.5	18.7

問8 訪問される方 (p65)

【問8で「1 はい」(に○をつけた方のみお答えください。】

訪問されている方をお答えください。(○はいくつでも)

医師 54.3% 看護師 17.3% OT・PT11.8% 歯科医師 7.1% 歯科衛生士 1.6%  
 薬剤師 4.7% 栄養士 1.6% その他 21.3% 無回答 3.1%

- ・訪問されている方については、「医師」が 54.3%で最も多く、次いで「看護師」が 17.3%、「理学療法士、作業療法士など」が 11.8%となっている。

## ●介護者調査

## 問 24-1(23-1) 介護を行ううえで困った時の相談先 (p121)

問 24(問 23)の相談窓口以外（＊）で、主な介護者が、自宅での介護を行ううえで困った時はどちらに相談していますか。（〇はいくつでも）

- ・介護を行ううえで困った時の相談先について、サービス利用者では、「居宅介護支援事業者(ケアマネジャー)」が 46.2%で最も多く、次いで「別居している家族や親族」が 30.4%、「かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師」が 27.5%となっている。一方、サービス未利用者では、「別居している家族や親族」が 36.3%で最も多く、次いで「同居の家族」が 22.0%、「かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師」が 21.4%となっている。

＊区役所・保健福祉センター、地域包括支援センター、おおさか介護サービス相談センター、国民健康保険団体連合会、認知症初期集中支援チーム

## 問 27(25) 在宅での介護を続けるために重要なこと (p127)

主な介護者にとって、自宅での介護にあたって重要なことは何ですか。（〇はいくつでも）

- ・在宅での介護を続けるために重要なことについて、サービス利用者では、「家族や親族の協力があること」が 40.1%で最も多く、次いで「緊急の場合など安心して医療サービスが利用できること」が 34.4%、「緊急の場合など安心して介護保険サービスが利用できること」が 33.1%、「日頃から本人の心身の衰えを防ぐ介護予防に心がけること」が 26.0%、「本人、護者が希望する介護保険サービスの質、量が確保できること」が 23.8%となっている。
- ・一方、サービス未利用者では、「緊急の場合など安心して医療サービスが利用できること」が 47.8%で最も多く、次いで「家族や親族の協力があること」が 46.2%、「緊急の場合など安心して介護保険サービスが利用できること」が 44.4%、「日頃から本人の心身の衰えを防ぐ介護予防に心がけること」が 34.6%、「夜間・休日でも医師等に相談できること」が 28.3%となっている。

## 【介護支援専門員調査】

## 問 8-3 利用者にかかる医療的処置 (p 16)

利用者にかかる医療的な処置等について、人数内訳と種類をお答えください。

- ・利用者にかかる医療的な処置等の有無については、必要が「あり」は **66.7%**、「なし」は 13.1%、「無回答」は 20.2%
- ・その人数は「1人」が **22.4%**で最も多く、次いで「2人」が 19.8%となっている。
- ・医療的な処置等にかかる種類及び人数をみると、「酸素療法」が 1,214人 (16.5%) で最も多く、次いで「インスリン注射」が 1,048人 (14.3%) となっている。

## 問 8-4 終末期を在宅で迎える利用者数 (p 18)

利用者のうち終末期を在宅でむかえる方をどれくらい担当していますか。

- ・終末期を在宅で迎える利用者数については、「0人」が **48.7%**で最も多く、次いで「1人」が 20.4%、「2人」が 9.4%、「4人以上」が 6.4%、「3人」が 3.7%となっている。

## 問 11 量的に不足していると思われるサービス (p 21)

事業所数もしくは定員など、量的に不足していると思われるサービスはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

- ・量的に不足していると思われるサービス割合は、「訪問介護」が **24.8%**で最も多く、次いで「定期巡回・随時対応型訪問介護看護 (24時間サービス)」が **22.9%**となっている。
- ・「定期巡回・随時対応型訪問介護看護 (24時間サービス)」が **22.9%** (前回 18.4)
- ・訪問看護 6.1% (前回 9.1)、通所リハビリテーション 7.8% (前回 9.3)

## 問 14 医療に関する情報収集方法 (p 25)

ケアプランの作成にあたって、医療に関する情報収集をどのようにおこなっていますか。

(あてはまるものすべてに○)

主治医の意見書 **96.8%** (前回 97.0)

利用者の受診・入退院時に同行 **78.0%** (前回 75.6)

医療スタッフ等とのカンファレンス 60.1% (前回 57.2)  
 意見書を記載した主治医に対する電話・面談等 58.7% (前回 57.2)  
 病院内の地域医療連携室 (医療相談担当スタッフ) 58.6% (前回 49.0)  
 家族を通じて医師に指示を確認 49.6% (前回 49.4)  
 意見書を記載した主治医以外のかかりつけ医に対する電話・面談等 23.4% (前回 22.1)  
 その他 23.4% (前回 22.1)  
 特に何もしていない 0.0% (前回 0.1)  
 無回答 0.5% (前回 0.8)

- ・医療に関する情報収集方法については、「主治医の意見書」が 96.8%で最も多く、次いで「利用者の受診・入退院時に同行」が 78.0%となっている。
- ・前回調査と比較すると、「病院内の地域医療連携室 (医療相談担当スタッフ)」が 9.6 ポイント増加している。
- ・介護支援専門員の経験年数別でみると、いずれも「医療機関の受診への同席や入退院時のカンファレンスに参加」が最も多く、経験年数が長くなるほど割合が高くなっている。次いで“6 か月未満”、“3 年以上 5 年未満”、“5 年以上”では「かかりつけ医毎の連絡方法の把握」が、“6 か月以上 1 年未満”と“1 年以上 3 年未満”では「訪問看護ステーションと相談しながら連携」が続いている。(資料略)

**問 15 医療機関との連携するうえでの工夫 (p 26)**

医療機関 (かかりつけ医等) と連携するうえでどのような工夫をおこなっていますか。

医療機関の受診への同席や入退院時のカンファレンスに参加 83.7% (前回 80.6)  
 かかりつけ医毎の連絡方法の把握 50.3% (前回 51.8)  
 訪問看護ステーションと相談しながら連携 49.5% (前回 45.7)  
 ケアプラン作成・変更時にケアプランを利用者の医療機関に届ける 32.3% (前回 28.0)  
 医療・介護連携シートを使用 30.8% (前回 29.8)  
 他職種連携のための事例検討会や連絡会などへの参加 28.0% (前回 28.4)  
 地域包括支援センターと相談しながら連携 11.5% (前回 11.2)  
 サービス担当者会議毎にかかりつけ医の出席日時を設定している 11.1% (前回 12.0)  
 地域の医師や介護支援専門員などの団体に決めた連絡方法の活用 10.6% (前回 12.1)  
 その他 2.3% (前回 2.4)  
 特に何もしていない 1.6% (前回 2.0)



無回答 1.3% (前回 0.0)

- ・医療機関と連携するうえでの工夫については、「医療機関の受診への同席や入退院時のカンファレンスに参加」が 83.7%で最も多く、次いで「かかりつけ医毎の連絡方法の把握」が 50.3%、「訪問看護ステーションと相談しながら連携」が 49.5%となっている。  
前回調査と比較すると、「ケアプラン作成・変更時にケアプランを利用者の医療機関に届ける」が 4.3 ポイント増加している。
- ・介護支援専門員の経験年数別でみると、いずれも「医療機関の受診への同席や入退院時のカンファレンスに参加」が最も多く、経験年数が長くなるほど割合が高くなっている。次いで“6か月未満”、“3年以上5年未満”、“5年以上”では「かかりつけ医毎の連絡方法の把握」が、“6か月以上1年未満”と“1年以上3年未満”では「訪問看護ステーションと相談しながら連携」が続いている。(資料略)

**問 16 病院・施設等を入退所する利用者を担当したことがあるか (p 28)**

この1年間に病院等に入院する又は病院・介護保険施設等（以下、病院・施設という）を退院・退所する利用者を担当したことがありましたか。(○はひとつ)

- ・病院・施設等を入退所する利用者を担当したことがあるか  
はい 88.8%      いいえ 10.5%      無回答 0.7%
- ・入院した人  
5人未満 37.8%      5人以上10人未満 28.1%      10以上 22.7%      無回答 11.5%
- ・退院・退所した人  
5人未満 39.0%      5人以上10人未満 25.3%      10以上 17.6%      無回答 18.1%
- ・病院・施設等を入退所する利用者を担当したことがあるかについては、「ある」が 88.8%となっており、そのうち、入院した人は「5人未満」(37.8%)、退院・退所した人も「5人未満」(39.0%)が最も多くなっている。

### 問 16 -1 入退所する病院・施設等との連携について (P29)

問 16 で「はい」と答えられた方は、入院又は退院・退所する病院・施設と入院時、退院・退所時に連携をとりましたか。ひとりでも連携をとった場合は「はい」、まったくとらなかった場合は「いいえ」としてください。

#### ・入退所する病院・施設等との連携の有無

はい 98.7%      いいえ 1.2%      無回答 0.1%

#### ・連携をとった人数（入院）

5 人未満 44.0%      5 人以上 10 人未満 26.4%      10 以上 16.2%      無回答 13.4%

#### ・連携をとった人数（退院・退所）

5 人未満 40.5%      5 人以上 10 人未満 23.8%      10 以上 12.8%      無回答 22.9%

#### ・連携方法

病院や施設でおこなわれたカンファレンスに参加した 85.0%

病院や施設を訪問して連絡をとった 80.3%

病院や施設への電話で連絡をとった 62.6%

病院や施設と文書でやりとりをした 37.7%

その他 1.1%

無回答 0.3%

#### ・連携先

病院の医療相談担当スタッフ 84.3%

病院・施設の看護師 80.2%

病院・施設のリハビリテーション専門職 55.2%

病院・施設の医師 53.6%

施設の生活指導員 31.3%

施設の介護支援専門員 18.4%

その他 0.6%

無回答 0.5%

- ・病院・施設等を入退所する利用者を担当したことがある人が、入退所する病院・施設等と連携したかどうかについては、「はい」（連携をとった）が 98.7%となっており、そのうち、入院時に連携をとった人数は「5 人未満」が 44.0%で最も多く、退院・退所時に

についても「5人未満」が40.5%となっている。

- ・その連携方法は、「病院や施設でおこなわれたカンファレンスに参加した」が85.0%で最も多く、次いで「病院や施設を訪問して連絡をとった」が80.3%となっている。
- ・連携先では、「病院の医療相談担当スタッフ」が84.3%と最も多く、次いで「病院・施設の看護師」が80.2%となっている。

**問 16 - 2 病院・施設等との連携の加算について (P31)**

「問 16-1 で「はい」と答えられた方は、病院・施設との連携のための加算を請求しましたか。

- ・入退所する病院・施設等との連携の有無

はい 56.0%      いいえ 41.0%      無回答 3.0%

- ・加算の種類

入院時情報連携加算 (I)      74.3%

退院・退所加算                      69.3%

入院時情報連携加算 (II)      29.1%

無回答                                      1.3%

**\* 【入院時情報連携加算】**

(I) 200単位※病院又は診療所を訪問して必要な情報を提供した場合

(II) 100単位※上記以外の方法により必要な情報を提供した場合

・利用者が入院してから遅くとも7日以内に、「利用者に関する必要な情報」を医療機関へ提供した場合、原則として、当該情報を提供した月に算定する。

・「利用者に関する必要な情報」とは、「利用者の心身の状況、生活環境及びサービスの利用状況」を言う。

**【退院・退所加算】 300単位**

- ・利用者の退院・退所にあたり、介護支援専門員が病院又は施設等に赴き、当該職員との「面談」により「利用者に関する必要な情報」を得た上で、当該情報を反映した居宅サービス計画を作成した場合に算定する。

**問 16 - 3 退院・退所の際に困ったことの有無 (P32)**

「問 16 で「はい」と答えられた方にお伺いします。医療機関や施設などから退院や退所する際に困ったことはありましたか。(○はひとつ)

はい **39.0%**      いいえ 28.8%      無回答 32.2%

**問 17 在宅で医療的処置が必要な利用者への支援を行ううえで困っていること (P32)**

在宅で医療的処置を必要とする方の支援を行ううえで困っていることについてお聞きします。(○はそれぞれひとつ)

	そう思う	思わない	無回答
医療ニーズの高い患者を担当してくれるかかりつけ医がなかなか見つからない	<b>30.2</b>	49.4	20.4
医療ニーズの高い患者に対応が可能な訪問看護がなかなか見つからない	18.8	60.3	20.9
医療と連絡調整を行う際、多忙で連絡が取れないことが多い	<b>56.0</b>	27.2	16.8
医師や看護師の専門的な用語がわかりにくい	<b>45.5</b>	36.7	17.8
急な退院などで対応に困ったことがある	<b>63.7</b>	21.7	14.6
退院時に患者や家族は病状について、十分な説明を受けていない	43.6	38.0	18.3
対応に困った時に相談するところがない	<b>28.2</b>	52.5	19.3
在宅医療などの医療に関する勉強会や研修の場が少ない	41.9	38.6	19.5

- ・在宅で医療的処置が必要な利用者への支援を行ううえで困っていることについて、「そう思う」の割合が高いのは、“急な退院などで対応に困ったことがある”が 63.7%で最も高く、次いで“医療と連絡調整を行う際、多忙で連絡が取れないことが多い”が 56.0%となっている。

- ・介護支援専門員の経験年数別で、「そう思う」の回答をみると、“6か月未満”と“6か月以上1年未満”では「医療と連絡調整を行う際、多忙で連絡が取れないことが多い」が最も多く、“1年以上3年未満”、“3年以上5年未満”、“5年以上”では「急な退院などで対応に困ったことがある」が最も多くなっている。「医療と連絡調整を行う際、多忙で連絡が取れないことが多い」は経験年数が短いほど割合が高いが、「急な退院などで対応に困ったことがある」や「退院時に患者や家族は病状について、十分な説明を受けていない」では経験年数が長いほど割合が高くなっている。(資料略)

#### 問 18 在宅医療を進めていく上で必要な社会資源 (P36)

在宅医療を進めていくうえで必要な社会資源についてお伺いします。

(○はそれぞれひとつ)

	足りている	足りていない	わからない	無回答
医師による訪問診療	37.6	<b>40.2</b>	18.1	4.1
歯科医師による 訪問歯科診療	67.4	8.7	19.3	4.6
薬剤師による 居宅療養管理指導	56.4	12.1	26.4	5.1
看護師などによる訪問看護	65.8	18.6	10.8	4.8
歯科衛生士による 居宅療養管理指導	53.6	7.6	33.1	5.8
緊急時に対応してくれる医師 または医療機関	18.2	<b>63.7</b>	14.7	3.4
緊急時に対応してくれる看護 師または訪問看護	35.4	<b>42.9</b>	17.2	4.4

- ・在宅医療を進めていく上で必要な社会資源について、「足りていない」の割合が高いのは、“緊急時に対応してくれる医師または医療機関”が63.7%で最も高く、次いで“緊急時に対応してくれる看護師または訪問看護”が42.9%、“医師による訪問診療”が40.2%となっている。
- ・現在の勤務先別で「足りていない」の割合をみると、いずれの区も“緊急時に対応してくれる医師または医療機関”が最も多く、なかでも西淀川区が76.2%で最も高い割合となっている。(資料略)

**問 19 サービス担当者会議の開催にあたり困難と感じていること (P38)**

サービス担当者会議の開催にあたり、困難と感じていることは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

- ・開催にあたり困難と感じていることは、「主治医との日程調整」が 79.8%と最も多く、次いで「サービス事業所との日程調整」が 58.8%となっている。

**問 33 介護支援専門員業務を行ううえでの課題 (P54)**

介護支援専門員業務を行ううえで、課題として考えているのはどのようなことですか。

(あてはまるものすべてに○)

医療機関等、他の施策分野との連携がうまくとれない

24.0% (前回 32.5%)

- ・介護支援専門員業務を行ううえでの課題は、「記録と書類の量が多く負担となっている」が 77.9%で最も多く、次いで「認定結果が出るまでの暫定ケアプラン調整で要支援の結果が出た時に介護報酬で評価されない」が 40.0%、「利用者及び家族がサービスの必要性を理解していない」が 36.3%となっている。

## 【施設調査】

### 問 17 (1) 看取りの届出状況 (P57)

《特養、老健、特定施設、認知症高齢者グループホームの施設におたずねします》  
施設における「看取り」の状況についておたずねします。

(1) 看取り介護加算、ターミナルケア加算、医療連携体制加算の届出をされていますか。

- ・ 看取り介護加算（ターミナルケア加算）又は医療連携体制加算の届出を出している施設は、全体では6割以上となっている。前回と比較しても割合は高くなっている。施設別でみると、認知症高齢者グループホームが最も高く、次いで特別養護老人ホームとなっている。

認知症高齢者グループホーム 79.8%

特別養護老人ホーム 68.8%

有料老人ホーム 54.4%

### 問 17 (2) 看取りの実績 (P58)

(2) 昨年度 (H27.4～H28.3) において、施設内で「看取り」を行ったことがありますか。

- ・ 昨年度、「看取り」を行った施設は、全体では 45.9%であり、前回より 1 割強低くなっている。施設別でみると、特別養護老人ホームが 65.6%で最も割合が高く、次いで有料老人ホームが 51.5%となっている。

### 問 17 (3) 看取りの実績 (P59)

(3) 今後の「看取り」を行うにあたっての課題について、あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ・ 全体では「職員の意識、技術等の向上」が 70.9%で最も多くなっている。施設別では、認知症高齢者グループホーム、特別養護老人ホームが「職員の意識、技術等の向上」で7割以上と高くなっている。
- ・ 医療機関との連携とした施設は、全体の 51.5%  
認知症高齢者 GH 56.3%、特養 57.0%